



希望の鐘

2023・11・30 発行 文責：菅野 弘尊

「つながる」

校長 菅野 弘尊

10月末、4年ぶりに入場制限の無い文化祭を行うことができました。「新時代～Our best memory」をテーマにした、子どもたち全員にたっぷり役割がある文化祭です。幼稚部から中学部まで、子どもたちは個性を発揮していて立派でした。特に中学部第3学年は、本校で最後の文化祭ということで思い入れも強く、全校の子どもたちを巻き込んだ演出を取り入れ「新時代」を感じさせてくれました。そして「おわりのことば」では、自分たちが小学部第1学年のときに担当した「はじめのことば」をふまえた素晴らしい発表をしてくれました。この文化祭の「おわり」ではなく、中3生にとっては小学部からの9年間、そして乳幼児相談や幼稚部時代を含めると10数年に及ぶ旭川聾学校での生活の「おわり」を象徴しているのだなと感慨深いものがありました。

会場に集まっていた100名を超える方の中には、その素晴らしい内容に、職員を含め感動の涙を流している人が本当にたくさんいらっしゃいました。週明けの全校朝会では「感涙」をテーマにして話をしたのですが、良い涙、嬉しい涙の話を胸をはってできることを誇らしく思いました。きっと先輩の姿を見た小さな子どもたちは、憧れと自覚をもってこの先進んでくれることでしょう。旭川聾の良い伝統はこれからも生き続け、つながっていくのだと確信できた一コマでした。

また本校では、文化祭に限らず、ろうの方や地域の方に学校を参観していただく機会や、大学生に向けて聾学校や聴覚障がい教育についてお話をさせていただく機会も設けています。参加してくれた方たちからは、いつも子どもたちの素直さや明るさ、先生たちと子どもたちの関係の良さについて感想をいただくことができ嬉しく思っています。「子どもたちの姿や学校の取組が良かったという話を聞き、見に来ました。」という方が学校に来てくれた例もありました。さらに、話を聞いてくれた大学生や地域の方の中には、学校行事等でのボランティアを積極的に申し出てくれたり子どもたちともっと関わりたいと興味をもってくれたりする人もいて、「知ってもらおうことが、子どもたちの理解と将来につながる。」こと、そして子どもたちや学校の姿が誰かのパワーになっていることを実感させられます。

文化祭を通じた先輩から後輩へのつながり、会場に集まってくれた方々と子どもたちとのつながり、そして学校や地域みなさんとのつながりなど、その力の大きさや嬉しさ、広がっていくエネルギーを大切にしていきます。

10月末に行われた文化祭を特集します。当日は100名を超える方々に見に来ていただきました。たくさんの温かい拍手をありがとうございました。

「幼稚部劇 あかすきんちゃん」

幼稚部 長岡さとみ

今年度の幼稚部は、久しぶりに全学年が揃っての発表となりました。体調を崩すなどしてお休みする子がいて文化祭直前まで全員揃っての練習ができませんでしたが、本番ではどの子も素晴らしい姿を見せてくれました。

どの子も練習を重ねるたびに、踊りを覚えて口ずさみながら踊るようになってたり、自信をもって大きな声でセリフを言ったりするなど、役になりきって演じる様子が見られるようになりました。

また、年中、年長組の子ども達は、今年初めての年少組のお友達を温かく見守ったり、助けてあげたりするほほえましい姿も見られました。

本番では、子ども達の最高の姿を観客の皆さんに見ていただけたと思います。終わった後の子ども達は、達成感いっぱい笑顔でした。



「小学部劇 オズの魔法使い」

小学部 谷 奈々美

今年度の小学部は、「オズの魔法使い」を劇で演じました。9名の子どもたちが、「大きく はっきり 元気よく！」を目標に練習を重ねてきました。自分の役になりきるためには、どのように演じたら良いのか子どもたち一人ひとりが工夫している姿が見られました。

本番当日は、緊張している子どもたちもいましたが、始まる前から自信に満ちた良い表情をしていました。劇中は堂々と演じ、保護者に今までで1番良い姿を見せることができました。



「中学部 YOSAKOIソーラン」

中学部 工藤 努

今年も、中学部3年生の生徒を中心に自分たちでセリフや動きなどを考えた寸劇と、伝統ある「YOSAKOIソーラン」を演じました。

寸劇では、当日まで何度も動きを確認しながら、全員が納得できるまで練習を続けました。また、今年は先生も特別出演し、生徒にとって一生忘れることのない良い思い出を作ることができました。「YOSAKOIソーラン」では、中学部の生徒が一丸となって迫力ある踊りを演じることができました。中3生の皆さん、伝統の引き継ぎ本当にお疲れ様でした。



「中学部第3学年 おわりのことば」

中学部第3学年

「終わりの言葉」が始まると、「もう文化祭が終わってしまう」と寂しくなりました。「僕は、かっこいい先輩になれましたか?」と、みんなに聞いたとき、大きな拍手があがりました。僕はとても嬉しくて泣いてしまいました。最後に、「1、2、3、ダー!」とみんなで言った時に、僕は「ああ、最高の文化祭だった」と思いました。

「終わりの言葉」を短時間で完成させる事は大変でした。でも、〇〇君と力を合わせ、準備や練習をする時間はとても楽しかったです。当日は、会場を一体にして盛り上げる事ができ、とても嬉しかったです!後輩のみんなが、思いを受け継いで、これからの新時代を築いてくれる事を、僕は信じています!

